

平成29年度
北海道博物館事業実績報告書
(平成29年4月～平成30年3月)

平成30年6月

北海道博物館

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	2
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	2
(2)	企画展示の開催	3
(3)	アイヌ文化に関する展示事業【アイヌ研】	4
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	5
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化【アイヌ研】	7
4	北海道開拓の村の整備	8
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	9
(2)	教材の充実	10
(3)	はっけん広場の運営	11
(4)	アイヌ文化に関わる教育普及事業【アイヌ研】	12
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	12
7	道民参加型組織の整備	13
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	13
(2)	周辺環境の整備	14
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	14
9	広報	
(1)	広報活動の強化	15
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	16
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	17
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	18
(2)	博物館交流の促進	18
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信【アイヌ研】	19
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	19
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	20

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】	21
1.3 人材育成機能の強化	
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	21
(2) 外来研究員の受入	22
(3) 派遣研修	22
1.4 研究成果の発信と社会貢献	
(1) 学術刊行物などの刊行	22
(2) 学会への発信	23
(3) 職員の対外貢献	24
(4) 外部機関との事業連携	24
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	24
(6) アイヌ文化研究の発信【アイヌ研】	25

以下については、平成27年度の北海道立総合博物館協議会の答申を受けて、平成28年度から年度計画の中に追加したものである。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成	25
(2) 研究センター内の意思決定機関の育成	26
(3) 道庁の支援体制の育成	27

■別添資料 平成30年度アイヌ民族文化研究センター事業計画（抜粋）

1 展示事業	
1) 総合展示の運営	30
2) 特別展・企画展	30
3) 巡回展	31
2 調査研究事業	31
3 資料・情報の収集・整備事業	32
4 資料・情報等の公開・提供事業	
1) 資料の公開	33
2) 情報発信	
(1) 学術情報の集約	34
(2) 発信基盤の整備	34
(3) 学習・伝承活動への支援	34
5 成果の普及事業	
1) 教育普及	34
2) 研究成果の提供	35
6 その他	
ガバナンス態勢の育成 研究センター内の意思決定機関の育成	37

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

【年度目標】

- ① 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- ② 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。
- ③ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて、目録の刊行に向けた作業を進める。
- ④ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。

【事業実績】

- ① 北海道拓殖銀行野球部資料と、弥永北海道博物館に収蔵されていた資料を一括で収集した。
上記以外には、資料に関する情報（「資料情報処理票」）を 56 件受理した。資料受入の可否を決定する「資料審査会」では、17 件の受入希望資料について検討を行い、1727 件 2565 点の資料の受入を行った。
- ② 収集から保存処理と収蔵までの流れと進捗状況を「資料審査会」で確認し、作業を実施した。
- ③ 『北海道博物館一括資料目録 第 1 集 弥永コレクション』を作成・刊行した。
- ④ 「資料審査会」において、再検討をすることとした。

資料情報件数	56 件
調査収集件数	32 件
受入資料件数	1,727 件
資料審査会の実施回数	11 回
資料登録件数（累計）	183,180 件

(2) 収蔵機能の強化

【年度目標】

- ① 収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。
- ② 災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- ③ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

【事業実績】

- ① 「資料審査会」にて資料情報登録の進捗状況をチェックし、資料情報の追加登録に努めた。
- ② 備えるべき基本的な機能、整備状況（受入動線、施設・機材・資材、人材等）、今後の課題などについて検討中である。
- ③ 収蔵庫各室の用途見直し等により収蔵スペースを確保し、新たに受入れた一括コレクションである「拓銀野球部資料」の配架を行った。

(3) 資料保存環境の維持

【年度目標】

- ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

【事業実績】

- ・ 薬剤だけに頼らない虫菌害防除対策（IPM）に関わる作業を、年度を通して実施した。

	予定・計画回数 (頻度)	実施回数 (頻度)	
資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数	12回（月1回）	12回（月1回）	
IPM に関わる作業の実施回数			
IPM 関連 作業の内訳	①捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査） （計 114ヶ所）。（全頭調査・報告1回を含める）	12回（月1回）	12回（月1回）
	②収蔵環境調査（収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査）	1回	1回
	③特別展示室と収蔵庫の空気質調査（有害物質測定）	3回	3回
	④収蔵庫清掃	12回（月1回）	12回（月1回）
	⑤全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1回（年1回）	1回（年1回）
	⑥新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質を完全に取り去る）作業	恒常的に実施	恒常的に実施
	⑦殺虫バッグによる収蔵庫搬入前の資料に対する二酸化炭素殺虫処理	15回	16回
	⑧収蔵庫内巡回等（庫内点検、害虫除去、マット交換）	308回 （開館日に1回）	549回 （庫内点検）
	⑨収蔵庫内除湿機稼働	湿度の変動による	130回
	⑩その他の収蔵環境の問題解決（収蔵庫シーリング作業、カビが発生した資料ならびにその収蔵環境に関する調査、漏水対応等）	問題発生時に随時	23回
	⑪新着資料及びカビが確認された資料の薬剤燻蒸（外部発注）	—	1回
	⑫公開承認施設会議への担当者の参加	1回（年1回）	1回（年1回）

（４）収蔵資料の利用への対応

【年度目標】

- ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

【事業実績】

- ・ 特別観覧（収蔵資料の熟覧）申請件数 45 件、模写品等使用（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）申請件数 135 件、資料貸出件数 22 件 274 点である。

2 展示

（１）総合展示室の運営

【年度目標】

- ① 総合展示の定期的な入替を実施する。
- ② 障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- ③ 総合展示のメンテナンスに努める。
- ④ 総合展示の防犯体制の見直しを進める。
- ⑤ 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

【事業実績】

- ① 総合展示内で定期的な資料入替を行っている「クローズアップ展示」の展示替えを計画どおりに、合計 25 回実施した。
「クローズアップ展示」以外の、総合展示室第 1～5 テーマの展示資料入替件数は 33 件である。その他、プロログ展示で 2 件、職員紹介コーナー展示で 5 件の展示資料入替を実施した。
- ② スマートフォンを利用した展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を継続して運用した。
- ③ 展示ケース・設備等の破損を指定管理者とともに点検し、総合展示のメンテナンスを行った（3 回）。
- ④ 総合展示室の定期的な巡回・点検を実施し防犯に努めるとともに、防犯カメラシステムの導入に向けた検討を進めた。また、特別展示室に防犯カメラシステムを設置し、警備室・事務室でモニターする体制を整備した。
- ⑤ 子ども向けクイズ・スタンプワークシートの配布などを行った。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
総合展示室利用者数	110,000 人	80,519 人
うち外国人利用者数	4,000 人	4,836 人

(2) 企画展示の開催

【年度目標】

- ① 民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。
- ② 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ③ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

【事業実績】

- ① 企業連携及び地域連携による大規模かつ魅力的な企画展示として特別展「プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—」を開催した。また、同特別展に関連した朝日新聞北海道支社主催「北海道の高校野球展」（札幌円山球場、旭川市民文化会館）に展示協力した。
- ② 研究成果を反映した展示としては、第 8 回企画テーマ展「夜の森」、第 10 回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」を開催した。収蔵資料を積極的に公開する展示としては、弥永北海道博物館旧蔵の一括資料により、第 9 回企画テーマ展「弥永コレクション」を開催したほか、北海道拓殖銀行野球部からの一括資料の一部を、特別展「プレイボール」で展示公開した。
道民参加型の展示は、休憩ラウンジを利用して、北海道化石会と連携した「アンモナイト」展を開催した。
- ③ 展示計画を議論する「展示ワーキングチーム」会議（平成 29 年度は 9 回実施）で、平成 30 年度以降の企画展示の計画を策定した。また、平成 30 年度の特別展開催に向けて「プロジェクトチーム」を組織し、4 回の事務局会議や事前調査などの準備を進めた。

特別展示室の利用者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
特別展示室利用者数	80,000 人	44,472 人

特別展・企画テーマ展名称	期間	実績
【特別展】 プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—	平成 29 年 7 月 8 日～9 月 24 日	19,565 人

【企画テーマ展】 夜の森 ―ようこそ！ 動物たちの世界へ―	平成 29 年 4 月 28 日～6 月 5 日	10,484 人
【企画テーマ展】 弥永コレクション	平成 29 年 10 月 14 日～12 月 24 日	8,354 人
【企画テーマ展】 カムイとアイヌの ものがたり	平成 30 年 2 月 2 日～4 月 8 日 (※実績値は 3 月 31 日までの利用者数)	5,760 人

巡回展名称	期間	実績
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2017 羅臼	平成 29 年 7 月 22 日～10 月 18 日	952 人

道民参加型企画展	
団体名	北海道化石会
資料	アンモナイト化石
期間 4 月 1 日～3 月 31 日	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

(3) アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】

1) 総合展示

【年度目標】

以下の 3 点について、所管グループとの連携のもと、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第 2 テーマのクローズアップ展示 3、4 について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化 Q&A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入替計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。
- ・ iPad を利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。

【事業実績】

- ① 総合展示第 2 テーマ「アイヌ文化の世界」におけるクローズアップ展示 3、4 で計 6 回の展示を実施し、シリーズ化した展示テーマを設け、内容の充実に取り組んだ。

展示シナリオ及び資料の事前検討については、おおむね期日に即した検討を実施した。

- ② 「アイヌ文化 Q&A」コーナーの運用については、更新準備までは作業を進めた。

- ③ 総合展示資料の定期的な入替は、衣服及び関連資料等（3～6 か月ごと）、筆録ノート、レコード等（1 年ごと）、装身具・祭具等（その他）に区分して計画を立て、計 7 件の入替を実施した。

iPad を利用した、衣服を紹介する展示は、写真の調達と機器の設置確認の途中まで進めた。

2) 企画展等

【年度目標】

- ① 第 10 回企画テーマ展「カムイとアイヌの ものがたり」を実施する。実施にあたっては、「地域差・個人差が多様なアイヌの世界観について、その多様性に配慮しつつ、どのようにして基本的な情報を伝えるか」「世界観」「物語」という“モノ”“形”をとともわらないものをどのように

わかりやすく展示するか」の2点に留意し、関係機関との協力・連携によって内容の充実を図る。

- ② 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を分担する。展示を通して、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施する。
- ③ 平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ④ 既にテーマを定めている「地名から見える北海道(仮)」については、北海道命名150年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

【事業実績】

- ① 第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」を実施した。また、関連事業として講演会などを平成30年3月までに実施した。
実施にあたっては、アイヌ民族の世界観や信仰について、かつその個人差や地域差等を伝えるため、口承文芸のアニメーション作品を軸にした展示構成とし、アニメ作品の使用や展示解説、講座等の開催においては、関係機関の協力を得て進めた。
- ② 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を担当し、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施した。
- ③ 平成30年度以降の企画テーマ展等の計画について、引き続き検討・策定を図った。
- ④ 平成31年度に開催予定の「地名から見える北海道(仮)」について、開催準備を進めた。

3) 巡回展

【年度目標】

- ・ 平成29年度の巡回展を開催し、30年度以降の開催計画を策定する。策定にあたっては、平成28年度同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

【事業実績】

- ・ 第3回アイヌ文化巡回展を羅臼町で「地名」をテーマに開催した。アイヌ文化関連の事業が少ない地域であることを踏まえ、地元の小学校で関連講座を開催した。
また、平成30年度の開催計画の策定に向けて準備を進めた。

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

【年度目標】

- ① 地域情報集積プロジェクト5課題、「自然・歴史・文化」総合研究4課題を前年に引き続き実施する。最終年度となる3課題について、成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。
- ② 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した調査研究ワーキングチーム等において、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。
- ③ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。
- ④ 月1回の定例研究報告会を継続して実施する。外部講師の招聘を検討し、実現を図る。
- ⑤ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。
- ⑥ その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。

【事業実績】

- ① 「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト（5 課題）、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト（3 課題）を前年に引き続き実施した。このうち、今年度が最終年度である課題について、それぞれ成果をとりまとめるとともに、翌年度に向けた方針を議論し、新規課題立ち上げの準備を進めた。
- ② 「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」のうち「地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用」について、各地域の住民の参加を得た公開研究会を開催したほか、各プロジェクトの調査実施過程で地域住民の協力を求め、参加を得た。
道民の自主的な研究活動や研究発表の場として、ラウンジでの「アンモナイト」展を実施中である。
- ③ サハリン州郷土博物館に 2 名の研究者を派遣し、サハリン州内において海岸漂着物および生物相に関する共同調査を実施した。
ロイヤル・アルバータ博物館から 2 名の研究者を招聘し、道内において、鳥類を中心とした生物学および先住民関係資料の状況についての共同研究を実施した。
- ④ 月 1 回の館内定例研究報告会を定例的に開催した。
- ⑤ 科学研究費補助金については、前年度からの継続 8 件に加え、新規 2 件、計 10 件を獲得し、研究を実施し（うち 1 件は研究代表者職員の中途退職により中止）、随時その成果を発表した。平成 30 年度以降については新規 12 件の申請を行なった。
- ⑥ 科学研究費補助金以外の外部資金については、新規に 2 件の申請をおこない、うち 1 件の採用を得た。

「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト（5 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・野幌森林公園の生物インベントリー調査（27～30 年度）（自然研究 G） ・北海道における漂着鯨類についての基礎的情報の集積と活用（27～29 年度）（自然研究 G） ・地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用（27～30 年度）（歴史研究 G） ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査（27～31 年度）（生活文化研究 G） ・北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査（27～29 年度）（博物館研究 G）

「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト（3 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元（27～31 年度）（自然研究 G） ・北方四島の考古学的研究（27～30 年度）（歴史研究 G） ・北海道におけるツルの自然史と文化史（27～30 年度）（自然研究 G、歴史研究 G）

「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州）（27～31 年度） ・寒冷地の自然と適応－博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究－（カナダ・アルバータ州）（27～31 年度）

科学研究費補助金による研究課題（10 課題）				
継続	基盤研究(B) 一般	平成 27～30 年度	小氷河期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響	添田雄二
継続	基盤研究(C) 一般	平成 25～29 年度	西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民族学的研究	舟山直治
継続	基盤研究(C) 一般	平成 27～29 年度	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発	青柳かつら
継続	若手研究(B)	平成 27～29 年度	「アイヌ絵」の成立展開についての基礎的研究	春木晶子
継続	基盤研究(C) 一般	平成 28～31 年度	近代の北海道と周辺地域における生物の人為的移入に関する研究	山田伸一

継続	基盤研究(C) 一般	平成 28～32 年度	蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究	東俊佑
継続	基盤研究(C) 一般	平成 28～32 年度	北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究	会田理人
継続	基盤研究(C) 一般	平成 28～30 年度	近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置：その歴史的意味に関する基礎研究	小川正人
新規	基盤研究(C) 一般	平成 29～31 年度	X線 CT を核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	杉山智昭
新規	基盤研究(C) 一般	平成 29～33 年度	北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究	池田貴夫

科学研究費補助金による研究課題への研究分担者としての参加 (3 課題)				
継続	基盤研究(C)	平成 26～29 年度	サハリン・アムール地域の言語地図 (研究代表者：札幌学院大学 白石英才)	水島未記
継続	基盤研究(B)	平成 28～31 年度	寒冷地域における遺跡や石造文化財の保存・修復に関する研究 (研究代表者：東北芸術工科大学 石崎武志)	杉山智昭
継続	基盤研究(B)	平成 29～31 年度	好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究 (研究代表者：國學院大学 内川隆志)	三浦泰之

科学研究費補助金以外による研究課題 (1 課題)				
新規	サントリー文化財団	平成 29～30 年度	北海道日本海沿岸地域のアイヌ民族が経験した 19 世紀 — 文献・モノ・絵画から近世・近代移行期のアイヌ社会を探る —	小川正人

科学研究費補助金以外の共同研究への参加 (2 課題)				
継続	日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」実社会対応プログラム (公募型研究テーマ)	平成 27～30 年度	日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究 (研究代表者：北海道武蔵女子短期大学教養学科 齋藤貴之)	会田理人
継続	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト	平成 28～29 年度	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築	小川正人

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】

【年度目標】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の 2 つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ② 平成 28 年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開 (展示等への成果反映、新たな課題設定等) を検討し、実施する。
- ③ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン (樺太) アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ④ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【事業実績】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進めた。
後者のプロジェクトについて、計3件の成果発表をした。
- ② 平成28年度で終了した個別課題については、その成果の展示等の事業への反映を検討するとともに、成果を踏まえたうえでの新たな課題を設定した。
- ③ ロイヤル・アルバータ博物館からの招聘者のうち先住民族の資料の扱い方に関する調査に、研究センターとして対応した。
アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民族との関わりのあるあり方について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地域差等に関する実物資料や伝承の比較等の課題の検討を始めた。
- ④ 日本学術振興会科学研究費補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員の獲得件数は1件に減少したが、新たにサントリー文化財団の助成金にて配当を受け、調査研究を開始した。

アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（4課題）
・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究（29～34年度）
・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究（24～29年度）
・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査（26～29年度）
・道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部（28～31年度）

アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（4課題）
・近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究（28～31年度）
・教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代（28～31年度）
・アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（28～31年度）
・アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）（26～31年度）

4 北海道開拓の村の整備

【年度目標】

- ① 地方創世拠点整備交付金による「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」を実施する。
- ② 平成29年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって、建造物の補修工事等を実施する。
また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施する。
- ③ 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。
- ④ 平成28年度に引き続き、北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。
- ⑤ 「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」をもとに、開拓の村のありかたについて、北海道150年に向けた具体的な検討を進める。

【事業実績】

- ① 北海道開拓の村旧小川家酪農畜舎ならびに旧菊田家農家住宅の改修工事、同建物の内部展示改修・体験ブース整備、解説板・サイン等の改修・多言語化（5カ国語）、馬車鉄道軌道延伸工事、吊り橋改修工事、体験教材の整備、牧野牧柵工事等を実施した。
- ② Wi-Fi設備整備工事、トイレ洋式化工事、馬車鉄道車輛改修を実施した。
旧若狭家たたみ倉及び旧龍雲寺の補修工事実施設計、旧武井商店酒造部及び旧三ツ河本そば屋の老朽度調査を実施した。
- ③ 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画を策定した。
- ④ 建造物の内部展示の改修・改定に関する整備計画のための調査・検討を進めた。
- ⑤ 北海道百年記念施設のあり方については、本庁のガバナンス体制に位置づけて検討を進めた。

<p>主な建造物等改修工 事、教材整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧菊田家農家住宅工事 工事期間：平成 29 年 6 月～11 月 ・旧小川家酪農畜舎補修工事 工事期間：平成 29 年 8 月～12 月 ・北海道開拓の村展示・体験ブース整備委託業務 工事期間：平成 29 年 8 月～平成 30 年 2 月 ・多言語解説板・サイン等の改修整備委託業務 工事期間：平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月 ・馬車鉄道軌道延伸改修工事 工事期間：平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月 ・吊り橋改修工事 工事期間：平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月 ・牧野牧柵改修工事 工事期間：平成 30 年 1 月～平成 30 年 3 月 ・インバウンド事業体験教材等委託製作業務 整備期間：平成 30 年 2 月～3 月 ・トイレ洋式化工事 工事期間：平成 30 年 1 月～3 月 ・北海道開拓の村屋外 Wi-Fi 設備構築工事 工事期間：平成 30 年 3 月 ・馬車鉄道車輛改修工事 工事期間：平成 30 年 3 月
-----------------------------	--

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

【年度目標】

- ① 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ② 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ③ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。
- ④ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。
- ⑤ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。
- ⑥ 利用者の満足度把握や、各種事業が終了した後に運営・企画等のさらなる見直しを行ない、事業の改善・充実化につなげる。

【事業実績】

- ① 総合展示室内での展示解説は、「ハイライトツアー」を計画的・定期的実施した。「ハンズオン」に関わる事業は、今年度は祝日に 16 件実施し、子どもからも好評であった。
- ② ちゃれんがワークショップ、文化の日特別イベント、ちゃれんが子どもクラブを計画的・定期的実施できた。今年度は 11 回開催した。
- ③ 調査研究成果を活用した講座・講演会としては、夏季は特別展、春季・秋季・冬季には企画テーマ展に関連した講演会や「ミュージアムカレッジ」を定期的実施した。
- ④ 「グループレクチャー」は、各種団体の要望に応じて、予約制で、テーマを定めて実施した。「はっけんプログラム」についても、予約制で、各種団体の要望に応じて実施した。また、学

校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を7月に実施し、学校団体にとってより充実した博物館利用のあり方について検討・提案を行なった。

- ⑤ 7月には博物館と地域の連携事業として「北海道ジオパークまつり」を、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブ、ハンズオンなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、12月・1月には収蔵庫見学等を行う「バックヤードツアー」を計4回実施した。
- ⑥ 利用者からの意見、企画・運営の反省点を精査のうえ、平成30年度のイベントプログラムを作成した。

イベントの参加者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成29年度目標値	平成29年度実績
イベント参加者数	6,000人	16,058人

(イベント参加者数 内訳)			
ちゃれんがワークショップ	230人	ハンズオン	5859人
ちゃれんが子どもクラブ	390人	ミュージアムトーク	226人
講座・講演会	1,543人	ハイライトツアー	925人
特別イベント	3,577人	ちゃれんがラリー	775人
その他のイベント	152人	はっけんイベント	2,381人

グループレクチャー		
(内訳)	実施件数	139件
	参加人数	7,077人

メニュー別実施回数		
(内訳)	総合展示みどころ	74回
	第1テーマ	7回
	第2テーマ	28回
	第3テーマ	9回
	第4テーマ	0回
	第5テーマ	2回
	その他	19回

はっけんプログラム		
	実施件数	110件
	クラス数	209クラス
	参加人数	6,694人

プログラム別実施回数		
(内訳)	① クマってこわい? ヒグマについてもっと知ろう	7回
	② アンモナイトで発見!	5回
	③ やってみよう アイヌ文化	128回
	④ 縄文文化のくらし	18回
	⑤ くらべてみよう! -くらしの道具 いまむかし-	50回

(2) 教材の充実

【年度目標】

- ① 「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発についての取組を進める。

- ② より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。
- ③ 6か国語対応のプロモーションビデオを、より多様な場面で活用する。
- ④ 学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材を開発する取組を進める。

【事業実績】

- ① 教材開発を進める前提として、博物館を学校教育で利用するための手引きとなる、学校教員向けの「北海道博物館学校利用ガイド」を開発・配布した。
- ② 多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスを、赤れんが庁舎内の北海道博物館紹介コーナーである「北海道博物館赤れんがサテライト」ならびに特別展示室においても導入した。
- ③ 北海道博物館のプロモーションビデオを「北海道博物館赤れんがサテライト」のデジタルサイネージ（大型モニター）で活用した。また、講堂で行なう事業の待ち時間などでも活用するなど、活用の幅を広げた。
- ④ 学校教員を対象として行った「博物館教育プログラム研修会」などで得た知見をもとに、学校教育にとってよりよい教材の開発に取り組んでいる。
「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」（北のミュージアム活性化実行委員会主催）において、北海道博物館としてブース出展し、開発途中の教材を多くの来館者に体験いただき、望ましい教材に対する意見を収集した。

教材の充実（開発した教材数）	
（内容）	<ul style="list-style-type: none"> ① 赤れんがサテライトのスマートフォン多言語展示解説 ② 特別展示室のスマートフォン多言語展示解説 ③ 平成 29 年度北海道博物館学校利用ガイド

（3）はっけん広場の運営

【年度目標】

- ① 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ② はっけん広場をより魅力的な空間にする「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化に向けた取組を行なう。
- ③ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- ④ 子どもをはじめとする来館者が、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ⑤ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」を開発するとともに、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。
- ⑥ 学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施するとともに、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。
- ⑦ 引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取り組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。

【事業実績】

- ① 自然、歴史、アイヌ文化、生活文化などを中心に約 40 種類の「はっけんキット」を常備し、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営した。
- ② より空間を明るくする看板の設置、床に敷くマットや畳の整備、より取り出しやすく運びやすい「はっけんキット」の箱の整備を実施した。
- ③ 「はっけんプログラム」は、6 つのメニューを整備のうえ、予約制で実施し、各種団体の要望に応じて実施した。

そのうちのひとつ、「ヒグマ」は「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」をとおして収集した意見をふまえ、新しいプログラムを完成させ、運用を開始することができた。

- ④ 「はっけんイベント」は、毎週土曜日・日曜日、祝日開館日に実施した。
- ⑤ 「はっけんキット」については、「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」で試行的に提供したキットに対する利用者からの意見をふまえ、新たなキット開発を検討している。
- ⑥ 館外への「はっけんキット」の貸出しは、2件にとどまったが、利用者からの意見をふまえ、貸出し用のキット開発を検討と貸出し促進に向けたシステム作りに着手した。
学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を実施し、そこで行った「はっけんキット」体験のプログラムを通じて、学校教員からの意見を収集し学校団体にとってより充実した「はっけん広場」の運営のあり方について検討を行った。
- ⑦ 利用者からの意見、企画・運営の反省点をまとめ、次年度以降の運営形態を一部改変し、改善・充実を試みた。

はっけん広場利用者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
はっけん広場利用者数	26,000 人	20,194 人

(4) アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】

【年度目標】

- ① 館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ② グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【事業実績】

- ① 平成 29 年度は、計 12 件の講座等を実施した（職員が館内で実施した講座・ワークショップ等は 8 件、巡回展関連講座は 1 件。外部講師による講座・講演会・特別イベントは 3 件）。
- ② 巡回展関連講座は、件数は前年度と比べて減少したが、開催館である羅臼町郷土資料館及び羅臼町教育委員会の要望にこたえ、地元の小学校においてアイヌ文化の体験講座を実施した。

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

【年度目標】

- ① 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ② より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

【事業実績】

- ① 館内外での研修会等へは、4 件 7 名が参加した。
- ② 教員などを対象とした研修会や意見交換会については、「北海道博物館・北海道開拓の村 博物館教育プログラム研修会」を実施、38 名の参加があった。
「教員のための博物館の日」に参加・出展し、31 名の参加者に対して当館の利用に関してレクチャー等を実施し、団体利用促進を図った。
初の試みとして「平成 29 年度初任段階教員研修（道教委・3 年次研修）」について 4 校 5 名を受け入れた。

7 道民参加型組織の整備

【年度目標】

- ① 第1期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する。
- ② 道民参加の促進に向け、ボランティア組織や北海道総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。
- ③ 文化庁などからの外部資金を獲得し、全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業などの推進と強化を図る。
- ④ 道民参加型の事業を検討し、実施する。

【事業実績】

- ①、② 北海道立総合博物館における支援組織・道民参加型組織の創設にむけた検討を進め、実施計画を策定中である。
- ③ 北のミュージアム活性化実行委員会が中心となって、文化庁の「文化芸術振興費補助金」（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）を獲得し、「博物館と市民をつなぐ市民参加型博物館支援活動活性化事業」を実施した。
- ④ 道民参加型の展示事業は、北海道化石会の協力で「アンモナイト」の展示を実施中である。

8 施設及び周辺環境の整備

（1）館内施設の整備と活用

【年度目標】

- ① ミュージアムショップ等のアメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含めた検討を進める。
- ② オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ③ 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。

【事業実績】

- ① ベビーカー1台を増設した。
- ② オリジナルグッズの開発・販売は、総販売品目163種、今年度からの追加品目9種である。
- ③ 講堂の利用に係る行政財産使用許可の検討に当たり、基準の策定に向けた問題点の検証を行った。

オリジナルグッズ開発数	0件
-------------	----

新たに設置した設備 (内訳)	1件 ベビーカー
-------------------	-------------

施設利用（記念ホール）（他団体利用、イベント等）		
特別展「プレイボール！」開会式	主催	北海道博物館
	開催日	平成29年7月8日
ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	主催	北海道博物館
	開催日	平成29年11月3日
視察受入（海外、道議会等）の会場として活用 ※随時受入	—	—
	—	—

施設利用（講堂）（他団体利用、イベント等）		
日本セトロロジー研究会第28回大会	主催	日本セトロロジー研究会
	開催日	平成29年6月24日～25日

北海道ジオパークまつり 2017	主催	北海道博物館ほか
	開催日	平成 29 年 7 月 15 日
蝦夷和紙プロジェクト 2017	主催	北の紙工房 紙びより
	開催日	平成 29 年 10 月 14 日
博物館と市民をつなぐ博物館支援 組織まつり	主催	北のミュージアム活性化実行委員会
	開催日	平成 29 年 10 月 27 日～28 日

施設利用（グランドホール）		
慰霊行事	主催	北海道
	開催日	平成 29 年 11 月 13 日

（２）周辺環境の整備

【年度目標】

- ① サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。
- ② 屋上スカイビューは、4 月 29 日から 9 月 23 日までの祝日開館日（計 8 日間）の 10:00～16:00 に開放する。

【事業実績】

- ① 公園入口等に日英標記による開館・閉館案内の看板のほか、北海道開拓の村内に多言語表記による案内看板を整備したが、公園内各施設のサインの統一化については、設置費用の問題等もあることから検討は進んでいない。
- ② 屋上スカイビューの開放を 4 月 29 日～9 月 23 日までの祝日に実施した。

屋上スカイビューの開放	開放日	来場者数
	合計 6 日	2,072 人
設備周辺環境の整備		
(実施日又は期間)	(内容)	
H29.11.1～H30.3.20	北海道開拓の村多言語解説版・サイン等改修整備（解説板・サイン数 180）	

（３）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

【年度目標】

- ・ ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

【事業実績】

- ・ 北海道博物館ホームページを多言語化し、北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の各ホームページにリンクを設定した。
指定管理者と連携し、北海道みんなの日（7 月 17 日）に北海道博物館及び開拓の村の無料開放を実施した。

北海道みんなの日（7 月 17 日）	利用者数
北海道博物館（総合展示）	2,345 人
北海道開拓の村	2,785 人

- ・ 北海道博物館と自然ふれあい交流館との連携事業として自然観察会（計 4 回）を実施した。

- ・ 施設間の交通アクセスの向上のため博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行した（運行日：平成 29 年 5 月 3 日～7 日、平成 29 年 9 月 16 日～17 日）。
- ・ 利用者満足度調査を平成 29 年 10 月 25 日～11 月 10 日に実施した（回答数：北海道博物館 60 名、開拓の村 50 名、自然ふれあい交流館 20 名）。
- ・ 文化振興課で取り組んでいる「百年記念施設の再生構想」策定に向けた検討状況について情報共有を図った。
- ・ 各施設の管理運営に関する連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図るため、北海道博物館と指定管理者による北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議を原則毎月 1 回開催した。
- ・ 野幌森林公園の関係機関相互の情報交換及び連絡調整、自然公園における保護と利用の促進に必要な施策実施のため「野幌森林公園管理運営協議会」を設置し、12 回開催した。

野幌森林公園内施設の管理運営にかかる連絡会議の実施件数	12 件
一体的に実施した広報の件数	10 件

9 広報

(1) 広報活動の強化

【年度目標】

- ① あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。
- ② 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。
- ③ 北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。
- ④ 各媒体からの照会に伴う広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。
- ⑤ 平成 28 年度要覧を刊行する。

【事業実績】

- ① さまざまな媒体から一定程度の広報情報に関する照会があり、その都度情報提供を行った。当館からの積極的な広報活動としては、道政記者クラブへの情報提供（投げ込み件数 29 件）など道の広報部門と連携した広報のほか、他の媒体に対する働きかけを強化した。また、「行事あんない」、「森のちゃれんがニュース」を計画的に発行・配布するとともに、特別展・企画テーマ展、イベント等のポスターやチラシの配布を行った。
新聞、雑誌、テレビ、ラジオで当館について掲載、放送された件数は計 221 件である。なお、上記以外にも、単行本に 4 件、ウェブに 69 件、その他に 9 件、掲載・掲示され、北海道博物館開館後初の試みとして、「さっぽろ雪まつり公式ガイド」に当館の情報を掲載できた。
- ② 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用した。他機関の媒体においては、新聞で 5 件、雑誌で 6 件、外部機関のチラシで 2 件使用されるなど、増加傾向にある。
- ③ プロモーションビデオは、昨年度と同様、「北海道博物館赤れんがサテライト」のデジタルサイネージで活用した。また、講堂で行なう事業の待ち時間等での活用など、活用の幅を広げた。
- ④ 公益財団法人北海道観光振興機構および北海道旅客鉄道株式会社主催の北海道教育旅行説明会・相談会に、当館職員を北海道教育アドバイザーとして派遣し、宮城県、山形県、盛岡県、栃木県、埼玉県の旅行业协会と学校教員に対し、北海道博物館の PR 活動を行った。
- ⑤ 平成 28 年度要覧は、刊行できなかった。

ホームページのアクセス数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容		平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
ホームページのアクセス数（トップページ）		190,000 件	200,591 件
ホームページのアクセス数 月別件数			
4 月	19,179	8 月	23,212
5 月	19,602	9 月	16,534
6 月	17,443	10 月	13,468
7 月	29,004	11 月	13,697
		12 月	10,425
		1 月	12,152
		2 月	11,069
		3 月	14,806

広報媒体件数	新聞	218 件
	雑誌	40 件
	テレビ	24 件
	ラジオ	10 件

愛称およびロゴマークの掲載	新聞	5 件
	雑誌	6 件
	外部機関のチラシ	2 件

プロモーション映像の活用	4 件
ウェブサイトの更新	178 回

※プロモーション映像の活用の内訳は、赤れんがサテライト（常時公開）、当館ウェブページ（常時公開）、You Tube（常時公開）講堂での行事開始前の放映（平成 29 年度は年 7 回実施）。

内容	計画（頻度）	実施回数（頻度）
森のちゃれんがニュースの発行	4 回（3 か月に 1 回）	4 回（3 か月に 1 回）
行事あんないの発行	2 回（半年に 1 回）	2 回（半年に 1 回）
要覧 2016 の発行	1 回（年 1 回）	0 回（未発行）
特別展ポスター・チラシ 作成	1 回（特別展開催時）	1 回（特別展開催時）
企画テーマ展 ポスター・チラシ作成	3 回（展示会開催時）	3 回（展示会開催時）

（2）赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

【年度目標】

- ① 平成 29 年 3 月に改善を予定している新「北海道博物館赤れんがサテライト」の空間が、より魅力のある空間へと改善されたかどうか、効果検証を行なう。
- ② 道内博物館の情報発信機能の充実を含め、新「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定し、実行する。
- ③ 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。
- ④ 「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する広報活動を展開する。
- ⑤ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、定量的に把握し、改善・充実化への取組を行なう。

【事業実績】

- ① 平成 29 年 3 月に、赤れんが庁舎内の北海道博物館紹介コーナー（以下、「北海道博物館赤れんがサテライト」）の全面的な展示替えと、地域情報発信コーナーの一部改訂を実施した。以前に比べ、展示としての完成度は高まり、空間そのものもより魅力的なものに改善されたが、利用者へのオーディエンスリサーチなど、継続的な効果検証は行なっていない。ただし、利用

者と直に接する広報活動を行なうなかでの利用者の反応や意見は、概ね好評であった。

- ② 4月中に今年度における「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定し、運用戦略に基づき、以下を実施した。
 - ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」に、道内各博物館のパンフレットを閲覧できるようにした冊子を地域ごとに作成・配置し、道内博物館に関する情報発信を継続して実施した。
 - ・ 北海道博物館の多言語解説サービスが充実していることを訪日外国人にPRするため、多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスを、「北海道博物館赤れんがサテライト」においても導入した。
 - ・ 北海道博物館の著作物（展示図録、研究紀要、ニュースレター等）を閲覧できるコーナーを設置した。
 - ・ 月に1～2回程、定期的に「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新を行なった。
- ③ 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画した。
- ④ 札幌市内の文化施設等が特別に夜間開放を行う「カルチャーナイト」への参加など、少数にとどまった。

赤れんがサテライト利用者数	689,580人
---------------	----------

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

【年度目標】

- ① 北海道立総合博物館協議会（年2回）とアイヌ民族文化研究センター専門部会（年1回）などの円滑な実施と運営を行う。平成29年度は、第1期中期目標・計画（平成27～平成31年度）の中間外部評価を実施する。
- ② 内部評価の実施と運営を行う。
- ③ アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを実施する（4回）。

【事業実績】

- ① 平成29年度第1回北海道立総合博物館協議会を9月12日に開催した。この中で、協議会委員による第1期中期計画期中間外部評価が実施され、平成27～28年度の博物館内部評価結果に対する総括評価は、「B」（十分に実施していない）の評価であった。

平成29年11月16日に北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会を開催した。

平成30年3月27日に第2回北海道立総合博物館協議会を開催した。今年度第1回協議会で実施された中間外部評価の報告書が、協議会から知事へ提出され、平成29年度内部評価結果及び平成30年度計画を報告した。
- ② 平成30年2月27日に平成29年度内部評価委員会を開催し、内部評価を実施した。
- ③ 総合展示・企画展示の満足度については、5回アンケート調査を実施した。「たいへん満足」、「満足」の回答率は平均で96.1%となり、高い評価を得た。

その他、平成29年8月から、学校団体を対象とした利用実態調査（「学校団体利用報告書」の提出）を実施した。

利用者の満足度の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成29年度目標値	平成29年度実績
利用者満足度	80%	96.1%

展示会		満足度	満足度調査の内訳			
			たいへん満足	満足	不満足	たいへん不満
総合 展示	H29.4.28-6.4	97.4%	89	62	3	1
	H29.10.20-12.24	97.1%	43	25	1	1
	H30.2.2-3.31	97.3%	40	32	2	0
特別展 「プレイボール！」		94.8%	169	103	12	3
企画 展	夜の森	96.3%	106	78	5	2
	弥永コレクション	98.2%	58	51	2	0
	カムイとアイヌの ものがたり	90.9%	44	56	1	2
来場者調査 (H29.8.27)		96.7%	17	13	0	1
		平均 96.1%				

※満足度算定方法：アンケート回答数における「たいへん満足」「満足」の割合で算出。

1.1 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

【年度目標】

- ① 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ② 北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

【事業実績】

- ① 日本博物館協会の北海道支部として、表彰候補者の募集および各種アンケートへの回答など北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たした。
- ② 北海道博物館協会の事務局を担い、北海道博物館大会（7月）、ミュージアム・マネジメント研修会（10月）、役員会（3回）などの開催、『道博協ニュース』の刊行（3回）、道内地域ブロック別や館種別の組織の活動の支援を行うなど、北海道の中核的博物館としての役割を果たした。

(2) 博物館交流の促進

【年度目標】

- ① 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ② 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ③ 連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。

【事業実績】

- ① 外部組織・団体との交流・連携・協力については以下のとおりである。
 - ・ 市民・他団体・企業等との連携・協力
 - ・ 北のミュージアム活性化実行委員会と連携した「博物館支援組織まつり」の共催。
 - ・ 北海道新聞社と連携し、展示観覧と三笠市でのジオツアーを内容として実施した「まなぶんサマースクール（8月）」の共催。
 - ・ イオン北海道と連携し、特別展等のPRを実施。

- ・ CISE ネットワークなど他機関が主宰するネットワークへの参画およびイベントの実施。
- ・ 「自然史レガシー継承・発信実行委員会」への参画。
- ・ カルチャーナイト、サイエンスパーク、「教員のための博物館の日 in 札幌」、ジオ・フェスティバル in Sapporo などの他組織主催イベントへの参加・出展。
- ・ 学会及び研究会との連携・協力
 - ・ 日本セトロロジー研究会第 28 回大会の共催実施。
- ・ 高校との連携
 - ・ 札幌啓成高等学校の SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）活動への協力、「啓成 SSH in 光の広場」の共催・出展、及び高校生の解説活動指導等の協力。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
道内市町村等との連携・協力件数	45 件	30 件（下記含む）
図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数	17 件	

1.2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】

(1) 学術情報の集約

(2) 発信基盤の整備

【年度目標】

(1) 情報発信方策の再検討

- ① 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する(ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等)。
- ② 上記と並行して「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

(2) 学術情報の集積

- ① 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ② 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

【事業実績】

- ・ 学習・研究のための情報発信については、当年度中に増刷したアイヌ文化紹介小冊子の PDF を当館ウェブサイト上で更新した。

(2) ICT などを活用した情報発信機能の強化

【年度目標】

- ① 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。
- ② ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。
- ③ 館内の ICT の充実・活用を包括的かつ一元的に検討するために、平成 29 年度発足予定のワーキングチームと連携しながらソーシャルメディアの一層の活用を進め、多様な媒体による北海道博物館の諸情報の発信力を強化する。

【事業実績】

- ① 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備を進めた。

- ② ウェブサイトの保守に合わせてレイアウト等を一部変更し、より見やすく、わかりやすくなるよう改善を図った。
- ③ ツイッターへは 287 件の投稿を行った。特に、企画テーマ展に合わせたお勧め資料紹介など、学芸員の生の声を届けることで館の事業への注目度を高めるような工夫を前年度に引き続き、重ねることで一層の活用を図り、情報の発信力を強化した。結果として、3,075 のリツイートと 5,127 の「いいね」があり、フォロワー数は 2,054（平成 30 年 3 月末現在）であった。
- ICT ワーキングチームについては、あるべき姿について検討を行い、設置要項案を作成し、部内で調整中である。

ソーシャルメディアへの投稿件数	287 件
-----------------	-------

（3）道民の「知りたい」気持ちへの支援

【年度目標】

- ① 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。
- ② 図書室の基本的な機能をさらに充実させるとともに、道民向けの蔵書の充実、展示等と連動した開架コーナーの更新など、図書室利用の促進につながる取り組みを進める。
- ③ 昨年度から開始したレファレンスの集計記録を着実に実施するとともに、1 年の実績を踏まえたマニュアルの見直しを図る。また、レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みを作る取組を進める。

【事業実績】

- ① 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書や博物館刊行物等を収集し、開架部分で閲覧可能な道民向け蔵書の充実を図った。
- ② 企画展等に関連する図書を配置した特設コーナーを設け、図書室利用の促進に繋がる取り組みを引き続き進めた。
 図書管理用データベースシステムを引き続き運用し、図書整理やデータの入力などの作業を進めた。
 図書室カウンターの無人化に伴い、機材整備や体制構築等を 4～6 月にかけて実施、運営体制を軌道に乗せた。
 書庫の収容力が限界に達していることから、利用見込みのない図書類を除籍するための方針を定め、第一弾として約 4,200 冊を除籍した。
- ③ レファレンスについては、前年度に構築した研究グループごとの件数や内容を把握できる体制を運用することで、347 件を記録できた。

来館しない利用者による利用件数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
写真の提供件数	70 件	112 件
レファレンス件数	800 件	うち来館 168 件 非来館 224 件
アンケート、その他の利用件数	100 件	30 件

図書室の利用者数	2784 人
うち、図書室のみの利用者	27 人
新規登録図書数	152,175 冊
図書室で受け付けたレファレンス	73 件

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】

【年度目標】

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 29 年度は次の 2 点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
 - ② レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。

【事業実績】

- ② レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、レファレンス内容の情報を共有して対応力を向上することを目指したが、情報共有の機会を定例化できなかった。

レファレンス件数	99 件
他機関、団体への学習・伝承支援件数	4 件

1.3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

【年度目標】

- ① 博物館実習（館務実習）を夏季に 1 回実施する。
- ② 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ③ 博物館実習の内容についての効果測定を行い、その結果を反映させたより効果的な実習プログラムの構築に向けた取組を進める。
- ④ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

【事業実績】

- ① 博物館実習（館務実習）は、8 月 22 日～9 月 1 日（実質 10 日間）の日程で実施した。定員 20 名のところ最終的に 16 名（北海道大学、札幌学院大学、東海大学ほか）の受講があった。体験学習素材準備、オーディエンス・リサーチ、野外観察プログラム製作、展示実習等、博物館の活動のほぼ全体にわたって体験できるカリキュラムとすることができた。オーディエンス・リサーチの結果は、『北海道博物館研究紀要』第 3 号にも掲載した。
- ② 博物館実習（見学実習）は、3 件（北海道大・同大学院ほか、計 37 名）を受け入れた。インターンシップは、6 件（札幌市立平岸高校、興部町沙留中学校ほか、計 25 人）を受け入れ、博物館および学芸員の業務のうち、普及イベントの準備などを体験する機会を提供した。
- ③ 博物館実習の内容の効果測定については、実習中の日誌や実習後のレポートを参考としつつ、効果を数値で示す手段や方法に関する検討を行った。
- ④ 職員を大学の非常勤講師や講演の講師として派遣した。

博物館実習の受入	館務実習	受入件数	1 件
		参加人数	16 人
	見学実習	受入件数	3 件
		参加人数	37 人
インターンシップの受入	件数	6 件	
	参加人数	25 人	

(2) 外来研究員の受入

【年度目標】

- 外部研究者や大学院生などを外来研究員として受入れるため、規定類の整備など体制構築を行う。

【事業実績】

- 他機関からの人事交流の打診を受け、北海道における受入制度や想定される受入体制等に関して検討を開始した。

(3) 派遣研修

【年度目標】

- 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会などに当館職員を参加させる。

【事業実績】

- 北海道博物館協会主催のミュージアム・マネジメント研修や文化庁が主催するミュージアム・マネジメント研修などに当館の職員を4件7名派遣した。

1.4 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

【年度目標】

- 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号を刊行する。
- 研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館・旧アイヌ民族文化研究センターの学術刊行物等についても遡及して著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。
- 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。

【事業実績】

- 『北海道博物館研究紀要』（以下『博紀要』）『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』（以下『セ紀要』）第3号を刊行した。『博紀要』では外部査読を初めて実施した。
- 『博紀要』『セ紀要』第2号をウェブサイト上で公開した。
- 特別展の開催に合わせ展示図録を刊行した（平成29年7月）。
- 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行した（平成29年4月・10月・平成30年2月）。

『北海道博物館研究紀要』 第3号	
執筆者	タイトル
【論文】	
杉山智昭	津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価（Ⅱ）—紙製文化財に対する好気性糸状菌の活動抑制効果について—
【研究ノート】	
東 俊祐	「土人給料勘定」のしくみ（Ⅰ） —北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—
会田理人	全道樺太実業野球大会

山田伸一	明治期北海道における人とハクチョウ
【調査報告】	
水島未記・野幌森林公園植物調査の会・扇谷真知子・濱本真琴・堀繁久・表溪太	野幌森林公園地域の種子植物相
添田雄二・青野友哉・三谷智広ほか	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 III
加瀬善洋・林圭一・圓谷昂史・添田雄二・栗原憲一ほか	北海道北広島市西の里で認められたサンドリッジ堆積物の体積相・古流向とその意義
圓谷昂史・添田雄二・栗原憲一ほか	北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代
右代啓視・鈴木琢也・スコヴァティツィーナ, V. M.	千島列島における人類活動史の考古学的総合研究 (III) —特に北方四島の先史文化研究を中心に—
舟山直治・村上孝一・尾曲香織・武田聡	滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承
尾曲香織	新十津川における女性のくらし —結婚や出産に関わる習俗の変化についての考察—
栗原憲一・池田貴夫・堀繁久	来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題
山田伸一	開拓使とキツネ
【博物館活動報告】	
東 俊佑	北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 第3号	
執筆者	タイトル
【論文】	
北原次郎太 ※依頼原稿	アイヌ文様は「魔除け」か —衣文化に付随する通説を検証する
大坂 拓	アイヌ民族の荷縄 —地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討—
大坂 拓	北海道アイヌの「死者用靴」 —日高東部地域の東方系出自集団に固有の死装束とその周辺—
【調査報告】	
甲地利恵	アイヌ音楽の音声資料 —公刊されたアナログレコード盤—
大谷洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」 —人間の女に惚れたフリを殺した男—
【資料紹介】	
大坂 拓	北海道新ひだか町静内収集の編袋 —新ひだか町博物館所蔵資料の紹介—
小川正人・大坂 拓	釧路市・清野写真館旧蔵写真 —2017年度新収蔵資料の紹介—
田村将人 ※依頼原稿	先住民政策に関する樺太庁文書

特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行	
図録	特別展 『プレイボール!』
パンフレット	第8回企画テーマ展 『夜の森』
	第9回企画テーマ展 『弥永コレクション』
	第10回企画テーマ展 『カムイとアイヌのものがたり』

(2) 学会への発信

【年度目標】

- ・ 学芸職員、研究職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループない

し北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について検討を進める。

【事業実績】

- ・ 学芸職員、研究職員による研究成果の館外への公開・発信については、学会や研究会等での発表が 18 件、学術雑誌等への執筆が 41 件（当館の研究紀要への投稿 20 件を含む）と、計 59 件行った。

（3）職員の対外貢献

【年度目標】

- ・ 各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

【事業実績】

- ・ 以下のとおり、様々な形態で積極的な対外貢献を行った。
 - ・ 招待講演の件数（65 件）
 - ・ 各種委員・共同研究員等委嘱の件数（35 件）
 - ・ その他調査協力等（23 件）
 - ・ 専門的知見の提供（80 件）

社会貢献の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 29 年度目標値	平成 29 年度実績
新聞・報道対応の件数（広報対応 230 件を含む）	計 180 件	310 件
学会発表の件数		24 件
学術雑誌等への寄稿の件数		23 件
招待講演の件数		65 件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数		35 件
その他の件数		23 件
		合計 480 件

（4）外部機関との事業連携

【年度目標】

- ・ 前年度に引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

【事業実績】

- ・ 特別展「プレイボール！－北海道と野球をめぐる物語－」の開催に際し、多くの民間企業を含む外部機関・組織との連携・協力を行った。
- ・ 「かるちやる net」等多くの外部機関主催のイベントに参加した。

（5）道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

【年度目標】

- ① 政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。
- ② 北海道 150 年事業への積極的なアプローチを行う（特に、特別展「松浦武四郎」展の開催に向けた準備、「北海道百年記念施設」の今後の整備等について、検討を具体化させる）。
- ③ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。

【事業実績】

- ① 平成 27 年「新・北海道ビジョン推進方針」の政策に示されている【政策 82】「北海道ミュージアム構想」の推進、【政策 83】「北海道 150 年事業」の展開、【政策 84】「赤れんが庁舎の機能向上」と連動した取組を進めた。
「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」を北海道開拓の村において実施するなど、北海道の中核的博物館としての機能を強化するための取組を進めた。
- ② 「北海道 150 年事業」の関連事業として、平成 30 年度特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」の開催に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、関連機関との連携などの開催準備を進めた。また、総合政策部政策局北海道 150 年事業室と連携して、松浦武四郎関連の取組に対する専門的知識の提供などを行った。
- ③ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、道費による研究プロジェクト 18 課題を実施し、地域への研究成果の貢献などを進めた。『北海道博物館研究紀要』ならびに『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号を平成 30 年 3 月に刊行し、調査研究成果を公表した。

(6) アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】

【年度目標】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号を刊行する。
- ② 平成 29 年度に開催する企画テーマ展に調査研究課題の成果を反映させていく。
- ③ 『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ④ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【事業実績】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号は、計 8 本の論考等を掲載して 3 月に発行した。うち、アイヌ民族文化研究センター 6 名中 4 名が執筆し、事業・研究の成果を発表した。
- ② 第 10 回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」において、アイヌ口承文芸に関する研究成果やこれまでに培った専門的知見を反映させた。
- ③ 『アイヌ文化紹介小冊子』については今年度は「4 住まい」を増刷することができた。
- ④ 館の広報紙「森のちゃれんがニュース」に「アイヌ民族文化研究センターだより」のページを設け、巡回展や企画テーマ展など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員の調査研究に関する報告等を発信した。
研究紀要への投稿内容やその他の研究成果の発表について、アイヌ民族文化研究センターとして検討する機会は、年度当初の研究計画の検討（1 回）に加え、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』へのエントリー時期に検討（1 回）を行った。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成

【年度目標】

- ① 運営会議のスムーズな運営と意思決定機関としての能力をより高めるため、各グループ間の事前調整はもとより、特に資料のスリム化、事前配付を徹底する。
- ② 事業の着実な推進を図るため、懸案事項と本評価との整合性を図りつつ、優先的に取り組む事業を明確化し、予算要求に反映させるとともに、管理職による事業の進行管理を強化する。
- ③ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関への PR を図るため、視察対応の一層の

充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。

【事業実績】

- ① 運営会議のスムーズな運営については、定期的な開催により課題などの共有化を図るとともに、会議資料について極力スリム化を図るよう努めた。
平成 29 年度の会議の開催回数は 42 回であり、議題の件数は、協議事項 23 件、報告事項等 199 件であった。
- ② 運営会議等において、当該年度の懸案事項の共有化を図るとともに改題解決に向けて本庁と協議し予算の確保や組織体制の整備を図った。
平成 29.4 組織体制の整備として、以下を実施した。
 - ・ 学芸部門の監督責任者として「学芸副館長」を配置
 - ・ 博物館における「北海道 150 年事業」の円滑な実施のため企画グループにサブリーダーとして学芸主幹を配置

平成 30 年度予算の確保

内容	予算額	予算枠等
150 年事業の一環として特別展「松浦武四郎展」の開催	25,326 千円	北海道未来創生事業
民族共生象徴空間開設に向けたアイヌ文化情報発信事業	10,000 千円	北海道未来創生事業
「北海道開拓の村」の歴史的建造物の改修	100,000 千円	地方創生交付金の活用
省エネ照明設備導入及び森林公園施設整備	120,000 千円	長寿命化改修等

- ③ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関に対する PR を目的に、総務部を窓口として、教育機関や各種団体、海外、国、他府県、道内外市町村の行政機関や議会議員等による視察の受入体制を整備した。

内部視察	対応件数	80 件
	視察来館者数	592 人

(2) 研究センター内の意思決定機関の育成

【年度目標】

- ・ 研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。
 - ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
 - ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
 - ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

【事業実績】

- ① 研究紀要の編集方針等の調査研究上の主要な案件については、常勤職員の会議と並行して、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せを開催し、事業方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。
- ② 週 1 回の研究センターの打ち合わせを定例化し情報の共有に努めた。
- ③ 学芸部・総務部業務の緊急度・優先度を勘案しつつ研究センターでの会議や研究業務を進めるよう努めた。

(3) 道庁の支援体制の育成

【年度目標】

- ・ 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと解決を図る。

【事業実績】

- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の展示については、より博物館への誘導力のある空間とするため、博物館に改善策の提案等を行っているが、今年度は、本館で導入している外国語対応スマホアプリ「ポケット学芸員」を導入するとともに、デジタルサイネージでは、博物館のプロモーション動画の多言語版を上映するなど、インバウンド対応の強化が図られた。

また、総合展示だけでなく、特別展や企画展を紹介する展示も随時実施し、こちらにも上記スマホアプリを導入し、同展示への誘客が図られた。

- ・ 入場者の増加を図るため、総合展示については、一部展示替え時に、また、特別展示や企画展、博物館主催イベントについては、開催期間前に博物館と情報共有し、本庁において報道発表を行った。
- ・ 北海道開拓の村へのインバウンドの増加を図り、村の収入増につなげるため、国の地域創生拠点整備交付金を活用し、立入禁止としていた旧小川家酪農畜舎や旧菊田家農家住宅、馬車鉄道等の改修を行った。また、現在、歴史的建造物の保存・再生に向けた研修拠点として民間団体等に活用してもらうため、博物館と情報共有しながら、同交付金を活用した旧龍雲寺、旧若狭家たたみ倉の改修工事の予算（平成 29 年度予算（30 年度に繰越））を要求中である。
- ・ 北海道 150 年を迎えるにあたり、道民の貴重な財産である百年記念施設を将来に向けて、どのように後世に伝えていくことが相応しいのかを、学識経験者等から幅広く意見を聴取するため、「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を開催し、本懇談会での意見を踏まえ、博物館と情報を共有しつつ、今後の議論の方向性を示す「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」をとりまとめた。

- ・ 広報活動については、広報広聴課を通じて各種広報媒体を活用した広報を実施し、適宜経済団体や観光団体へも周知されているところである。

また、本年度は、同課を通じた市内商業施設等でのイベント、国際課を通じたロシアでの交流イベント等への参加について調整を行っている。

本庁は、広報広聴課や各部間との調整の上、広報活動を実施しており、博物館や指定管理者においても、特別展での広報や共通チケットの販売など観光協会や民間企業と連携した広報や取組を行っている。

【別添資料】

平成29年度アイヌ民族文化研究センター
事業実績（抜粋）

1 展示事業

1) 総合展示

【年度目標】

以下の3点について、所管グループとの連携のもと、実施する。

- ① クローズアップ展示の運用
 - ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。
 - ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
 - ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。
- ② 「アイヌ文化 Q&A」コーナーの運用
 - ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。
- ③ 展示資料の定期的な入替
 - ・ コーナー及び資料の種別に応じた入替計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。
 - ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。

【事業実績】

- ① 総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」におけるクローズアップ展示3、4で計6回の展示を実施し、シリーズ化した展示テーマを設け、内容の充実に取り組んだ。
展示シナリオ及び資料の事前検討については、おおむね期日に即した検討を実施した。
- ② 「アイヌ文化 Q&A」コーナーの運用については、更新準備までは作業を進めた。
- ③ 総合展示資料の定期的な入替は、衣服及び関連資料等（3～6 か月ごと）、筆録ノート、レコード等（1年ごと）、装身具・祭具等（その他）に区分して計画を立て、計7件の入替を実施した。
iPadを利用した、衣服を紹介する展示は、写真の調達と機器の設置確認の途中まで進めた。

総合展示の展示品の入替件数		7 件
(内訳)	衣服及び関係資料	3 件
	装身具等	0 件
	ノート等	4 件
クローズアップ展示 入替		6 回 (※クローズアップ展示3、4 各3回)
「アイヌ文化 Q&A」の入替件数		0 件

2) 企画展等

【年度目標】

- ① 第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」を実施する。実施にあたっては、「地域差・個人差が多様なアイヌの世界観について、その多様性に配慮しつつ、どのようにして基本的な情報を伝えるか」「世界観」「物語」という“モノ”“形”をとともわかないものをどのようにわかりやすく展示するか」の2点に留意し、関係機関との協力・連携によって内容の充実を図る。
- ② 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を分担する。展示を通して、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施する。
- ③ 平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ④ 既にテーマを定めている「地名から見える北海道(仮)」については、北海道命名150年に当

たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

【事業実績】

- ① 第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」を実施した。また、関連事業として講演会などを平成30年3月までに実施した。
実施にあたっては、アイヌ民族の世界観や信仰について、かつその個人差や地域差等を伝えるため、口承文芸のアニメーション作品を軸にした展示構成とし、アニメ作品の使用や展示解説、講座等の開催においては、関係機関の協力を得て進めた。
- ② 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を担当し、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施した。
- ③ 平成30年度以降の企画テーマ展等の計画について、引き続き検討・策定を図った。
- ④ 平成31年度に開催予定の「地名から見える北海道（仮）」について、開催準備を進めた。

展示会名称	期間	実績
【企画テーマ展】 カムイとアイヌのものがたり	平成30年2月2日～4月8日 (※右実績値は3月31日までの利用者数) (※会期全体では7250人の入場をみた)	6,069人

3) 巡回展

【年度目標】

- ・ 平成29年度の巡回展を開催し、30年度以降の開催計画を策定する。策定にあたっては、平成28年度同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

【事業実績】

- ・ 第3回アイヌ文化巡回展を羅臼町で「地名」をテーマに開催した。アイヌ文化関連の事業が少ない地域であることを踏まえ、地元の小学校で関連講座を開催した。
また、平成30年度の開催計画の策定に向けて準備を進めた。

巡回展名称	実績	
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名調査資料から～ 2017 羅臼	平成29年7月22日～10月18日	952人

2 調査研究事業

【年度目標】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ② 平成28年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ③ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ④ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【事業実績】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進めた。

後者のプロジェクトについて、計 3 件の成果発表をした。

② 平成 28 年度で終了した個別課題については、その成果の展示等の事業への反映を検討するとともに、成果を踏まえたうえでの新たな課題を設定した。

③ ロイヤル・アルバータ博物館からの招聘者のうち先住民族の資料の扱い方に関する調査に、研究センターとして対応した。

アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民族との関わりのあるあり方について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地域差等に関する実物資料や伝承の比較等の課題の検討を始めた。

④ 日本学術振興会科学研究費補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員の獲得件数は 1 件に減少したが、新たにサントリー文化財団の助成金にて配当を受け、調査研究を開始した。

アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（4 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究（29～34 年度） ・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究（24～29 年度） ・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査（26～29 年度） ・道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部（28～31 年度）

アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（4 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究（28～31 年度） ・教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代（28～31 年度） ・アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（28～31 年度） ・アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）（26～31 年度）

「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州） ・寒冷地の自然と適応—博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究—（カナダ・アルバータ州）

科学研究費補助金による研究課題（1 課題）				
継続	基盤研究 (C)一般	平成 28～30 年度	近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置：その歴史的意味に関する基礎研究	小川正人

科学研究費補助金以外による研究課題（1 課題）				
サントリー文化財団		平成 29～30 年度	北海道日本海沿岸地域のアイヌ民族が経験した 19 世紀—文献・モノ・絵画から近世・近代移行期のアイヌ社会を探る—	小川正人

科学研究費補助金以外の共同研究への参加（1 課題）				
継続	人間文化研究 機構基幹研究 プロジェクト	平成 28～29 年度	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築	小川正人

3 資料・情報の収集・整備事業

【年度目標】

- ① 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 29～31 年度で完了させる計画を再度策定し、実施する。
- ② 新規に受け入れるキーステン・レフシン資料等の整理を進める。その際、整理・登録の流れを全館的に確定する取り組みに参画するとともに、研究紀要等を使った継続的・組織的な紹介の進め方を検討し、実施する。
- ③ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集

等を位置づける。

【事業実績】

- ① 資料収集については、研究計画→資料調査→成果報告 という流れで進めた作業もあるが、組織的な調査及び情報整備の体制をつくるには到らなかった。
「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の未整理・未登録資料の整理・登録については、ごく一部に着手したにとどまった。
民具資料のうち過年度から未整理の資料については、関係者への聞き取り等により資料情報を補う作業を引き続き行った。
- ② 資料は公共財であるとの認識のもと、情報提供の一環として、新規に受け入れた資料のうち特徴的なもの等についての紹介を行うため、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』において「新着資料紹介」という枠組みを設け、以後継続することとした。
前年度、新規に受け入れたキーステン・レフシン資料については整理作業を開始したものの一時中断しており、平成 29 年度後半から再開した。
- ③ 研究プロジェクト等における資料所在調査等の位置づけや実施を意識しつつ、個々の研究課題を進めた。

新たに登録した資料の件数（未処理資料の解消）	0 件
収集した資料の件数	87 件
資料の所在調査等の実施件数（道費によるもの）	10 件

4 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

【年度目標】

- ① 資料公開手続きを再開し、実施する。
- ② 公開計画を再策定し、年間公開点数の増加を図る。

【事業実績】

- ① 平成 28 年度末に定めた資料の採録から公開までの手続きに関する要領に基づき、職員採録資料 3 点について公開準備を進めた。
- ② 公開までの手続きにおいて必要となる、関係者情報の整理について、アイヌ民族文化研究センター内で、流れや方針が確定・共有された。
「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」については、関係者調査や関係者との協議等を進めた。

公開した資料件数		0 件※
資料閲覧件数	全体	24 件
	文書	6 件
	音声・映像	8 件
	民具	4 件
	その他	6 件

※ ただし H30 年度公開に向け 3 点の公開用資料を H29 年度中に作成した。

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約

(2) 発信基盤の整備

【年度目標】

(1) 情報発信方策の再検討

- ① 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する(ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等)。
- ② 上記と並行して「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

(2) 学術情報の集積

- ① 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ② 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

【事業実績】

- ・ 学習・研究のための情報発信については、当年度中に増刷したアイヌ文化紹介小冊子の PDF を当館ウェブサイト上で更新した。

アイヌ文化コンテンツの追加数	0 件
ホームページのアクセス数	3300 件
ホームページ更新回数	0 回

(3) 学習・伝承活動への支援

【年度目標】

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 29 年度は次の 2 点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
 - ② レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。

【事業実績】

- ② レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、レファレンス内容の情報を共有して対応力を向上することを目指したが、情報共有の機会を定例化できなかった。

レファレンス件数	99 件
他機関、団体への学習・伝承支援件数	4 件

5 成果の普及事業

1) 教育普及

【年度目標】

- ① 館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ② グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【事業実績】

- ① 平成 29 年度は、計 12 件の講座等を実施した（職員が館内で実施した講座・ワークショップ等は 8 件、巡回展関連講座は 1 件。外部講師による講座・講演会・特別イベントは 3 件）。
- ② 巡回展関連講座は、件数は前年度と比べて減少したが、開催館である羅臼町郷土資料館及び羅臼町教育委員会の要望にこたえ、地元の小学校においてアイヌ文化の体験講座を実施した。

講座・イベント等

タイトル	日時	担当	参加者数
【ミュージアムカレッジ】 学校をつくる－近代北海道のアイヌ民族による小学校設置の取り組み－	6月11日	小川 正人	48名
【ちゃれんがワークショップ】 アイヌ民族の編みものをつくる－エムシアツの技術でプレスレット－	10月22日	大坂 拓	28名
【巡回展「アイヌ語地名を歩く」関連講座】 アイヌの楽器「ムックリ」「トンコリ」をひいてみよう	10月24日	甲地利恵	18名
【ちゃれんが子どもクラブ】 アイヌ音楽 うたおう・おどろう・ならそう・ひこう	11月11日	甲地利恵	17名
【ミュージアムカレッジ】 アイヌ民族の刀帯－その変化を探る	11月19日	大坂 拓	26名
【アイヌ語講座】 見てみよう！ カマイとアイヌの物語①	2月24日	遠藤志保	40名
【ちゃれんが子どもクラブ】 アイヌ語であそぼう！	3月4日	田村雅史 大谷洋一	14名
【アイヌ語講座】 見てみよう！ カマイとアイヌの物語②	3月10日	矢崎春菜氏 安田千夏氏 (外部講師)	57名
【講演会】 アイヌの物語世界	3月17日	中川 裕氏 (外部講師)	86名
【特別イベント】 〈ものがたり〉を聞く	3月17日 (2回開催)	川上 さやか氏 (外部講師)	90名
【アイヌ語講座】 見てみよう！ カマイとアイヌの物語③	3月24日	大谷洋一	58名
【ミュージアムカレッジ】 アイヌ音楽を知らない人のための アイヌ音楽入門講座	3月25日	甲地利恵	53名

グループレクチャーの実施件数		
全	体	137 件
アイヌ	関連	33 件
はっけんプログラムの実施回数		
全	体	208 回
アイヌ	関連	128 回

上記以外に行った館内イベント	0 件
----------------	-----

2) 研究成果の提供

【年度目標】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号を刊行する。
- ② 平成29年度に開催する企画テーマ展に調査研究課題の成果を反映させていく。
- ③ 『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ④ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【事業実績】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号は、計8本の論考等を掲載して3月に発行した。うち、アイヌ民族文化研究センター6名中4名が執筆し、事業・研究の成果を発表した。
- ② 第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」において、アイヌ口承文芸に関する研究成果やこれまでに培った専門的知見を反映させた。
- ③ 『アイヌ文化紹介小冊子』については今年度は「4 住まい」を増刷することができた。
- ④ 館の広報紙「森のちゃれんがニュース」に「アイヌ民族文化研究センターだより」のページを設け、巡回展や企画テーマ展など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員の調査研究に関する報告等を発信した。

研究紀要への投稿内容やその他の研究成果の発表について、アイヌ民族文化研究センターとして検討する機会は、年度当初の研究計画の検討(1回)に加え、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』へのエントリー時期に検討(1回)を行った。

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 第3号	
執筆者	タイトル
【論文】	
北原次郎太 ※依頼原稿	アイヌ文様は「魔除け」か —衣文化に付随する通説を検証する
大坂 拓	アイヌ民族の荷縄 —地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討—
大坂 拓	北海道アイヌの「死者用靴」 —日高東部地域の東方系出自集団に固有の死装束とその周辺—
【調査報告】	
甲地利恵	アイヌ音楽の音声資料 —公刊されたアナログレコード盤—
大谷洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」 —人間の女に惚れたフリを殺した男—
【資料紹介】	
大坂 拓	北海道新ひだか町静内収集の編袋 —新ひだか町博物館所蔵資料の紹介—
小川正人・大坂 拓	釧路市・清野写真館旧蔵写真 —2017年度新収蔵資料の紹介—
田村将人 ※依頼原稿	先住民政策に関する権太庁文書

「ちゃれんがニュース」の記事数	5 件
他機関の機関紙等での記事掲載数	3 件
道内市町村等との連携・協力件数	0 件
新聞・報道対応件数	1 件
講演依頼件数	11 件
各種委員への就任件数	7 件

6 その他

【ガバナンス態勢の育成】

研究センター内の意思決定機関の育成

【年度目標】

- ・ 研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。
 - ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
 - ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
 - ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

【事業実績】

- ① 研究紀要の編集方針等の調査研究上の主要な案件については、常勤職員の会議と並行して、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せを開催し、事業方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。
- ② 週1回の研究センターの打ち合わせを定例化し情報の共有に努めた。
- ③ 学芸部・総務部業務の緊急度・優先度を勘案しつつ研究センターでの会議や研究業務を進めるよう努めた。